

世界学術サミット 参加レポート

2019年9月にスイス連邦工科大学チューリッヒ校で開催された世界学術サミット。世界の高等教育関係者の中で交わされた議論を紹介する。

※本文中に出てくる大学名の下の「」内の数字はTHE世界大学ランキング2020の順位を示す

優秀な研究人材育成は世界的な課題

本サミットには世界各国から400名以上の高等教育関係者が集った。日本からも10大学の関係者が参加している。「How talent thrives」(研究者や学生の能力を開花させるには)というテーマの下、さまざまなセッションやネットワークキングが催された。

初日に最も注目を集めたのは、「Meeting of the alliances」と題された、世界有数の研究大学のリーダー陣13名による特別パネルディスカッション。カナダのU15やオーストラリアの Group of Eightといった研究機関グループの代表者に加え、日本のRU11からは早稲田大学【601・800位】の笠原博徳副総長が登壇した。議題は「研究者たちのポテンシャルを最大限に引き出し、次のブレイクスルーをどのように実現していくか」というもの。「失敗に終わっても、新たな発見につながるかもしれない実験・研究を財政的にフォローアップできる余裕が必要」(ヴィオラ・フォーゲル氏/スイス連邦工科大学チューリッヒ校【13位】健康科学技術学部長)、「有能な研究者が、安定したポジションで成長できるしくみが求められる」(ブライアン・シユミット氏/オーストラリア国立大学【50位】学長等の意見が出る中で、笠原副総長は、パテントや政府からの援助による研究資金の獲得やノーベル賞受賞者育成に向けた取り組み、自身の研究分野であるスーパーコンピュータに関する意見を述べた。

このパネルディスカッションで特に印象に残っているのは、シン

How talent thrives



取材・文/本間学

ガポール国立大学(NUS)【25位】のタン・エンチャイ学長の発言。シンガポールには大学が少ないという背景もあり、「自学の研究力そして国力を上げるためには、国外の大学との連携が不可欠」「欧米の有力大学のグループに、入れてもらおう」という姿勢ではなく、自らがネットワークをつくり、その中心になっていく」と語っていた。日本の大学にもネットワーク構築をする際にはNUSのような積極性を発揮してほしいと思う。

グローバルな課題に対して大学が育成すべき能力は?

2日目の午前は「Redefining talent」(才能の再定義)と題した、これからの時代に求められる能力について考えるセッションが進行。世界経済フォーラムのサー

ディア・ザヒディ氏から「仕事の未来と人材育成における大学の役割」に関する基調講演があり、「2025年までに職場のタスクは52%まで自動化される」「こうした時代には多くの人がスキルアップや再トレーニングに取り組むことが不可欠」などの話があった。

午後はサブテーマを「Closing the skills gap」(能力差の解消)としてプログラムが進行。有力なグローバル企業と世界のトップ大学によるセッションでは、AIの普及やオートメーション化により求められる力が変化する中で、高等教育機関が育成すべきなのは「スキル」か、「知識」か、という議論が展開された。

締めくくりは「Adapting the skills of the future」(これから必要なスキルへの順応)と題する



1初日の特別パネルディスカッション。進行役はTHEのフィル・ベイティ氏。早稲田大学の笠原副総長も登壇(左から4人目) 2アジアNo.1が発表された瞬間。3ディナー兼懇親会はネットワーキングの場。4セッションで話されたトピックを描いていく壁画。

セッション。進行役のNUSのタン学長からは、「研究過程では、気付けば千回失敗していることがよくある。これを『研究には千のステップがある』と認識を変えることが重要」という発言があり、聴衆からの共感を博していた。

夜には最新の世界大学ランキングが発表された。アジアでは清華大学【23位】が前年に引き続きトップを堅守。「評価されたことは光栄だが、アジアは限定されたマーケット。国際マーケットの中で、上位にランクインできるような努力したい」とのコメントがあった。

社会の変化に対応してメンドロジにも変化が

3日目はサブテーマを「Who, What, Where?」と題し、急速に変化する世界に対してどのように共同研究、文化的交流を進めるべきかについての議論があった。あるセッションでは「日本の大学は他国の大学とのコラボレーションが少ない」という分析がなされており、国際的なネットワークの中で新たな時代に対応できる人材の育成が急務であると感じた。

なお今回のサミットでは、ランキングの今後についての発信が多くなされている。*大学インパクトランキング2020については、新たなメンドロジが披露された。また、今回の世界学術サミットでは世界大学ランキングの新たなメンドロジが発表されるとい



筒井瑛美 つつい えみ ●(株)進研アド教育改革支援部。関西地区での大学支援を経て、2018年より現職。THE世界大学ランキング分析や大学の魅力向上施策の企画立案など、多角的に改革支援を行っている。撮影/荒川潤

藤田医科大学に世界の大学トップが集結! アジア大学サミットが日本で初開催

THE Asia Universities Summit 2020

ホスト大学 藤田医科大学(愛知県豊明市)
テーマ Crossing boundaries, unlocking creativity
日時 2020年6月2日(火)~4日(木)

登壇者 大隅良典氏(自然科学研究機構基礎生物学研究所教授)
天野浩氏(名古屋大学工学研究科教授)
松尾清一氏(名古屋大学総長)
Dr. Bin Yang(清華大学副学長)
Dr. Tan Eng Chye(シンガポール国立大学学長)
Dr. Oh Se-Jung(ソウル大学学長)
Dr. Julia Buckingham CBE(英国大学協会会長)
ほか、約30名を予定

参加申し込み▶THEのサイトから申し込み可能
<https://www.timeshighereducation.com/summits/asiauniversities/2020/>

2020年6月、アジア大学サミットが国内で初めて開催される。ホストとなるのは、藤田医科大学。

テーマは「Crossing boundaries, unlocking creativity(境界を越え、創造性を引き出す)」。若年層の減少および高齢化、国際交流の進展など、日本をはじめとするアジア諸国が抱えている課題に加え、AIやSDGsなどグローバル社会全体が直面している大きな課題について、世界各国の高等教育関係者を招き、議論を深める。登壇者としてノーベル賞受賞者、国際的リーダー、各国トップ大学学長が出席する予定。また、サミット2日目には、THE世界大学ランキングのアジア大学ランキング2020も発表される。

参加申し込みはTHEのサイトから可能。すでに受け付けは始まっている。貴重な意見に触れる機会、国際的なネットワークを広げるチャンスとして、積極的に活用したい。

* 国連の持続可能な開発目標「SDGs」への取り組みを測るランキング。P.6参照